

研究の概要

20 23 年 6 月 27 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	先体反応を起こした精子を用いたICSIの臨床応用に向けて(2) -自己細胞由来プロゲステロン溶液と透明帯を使った先体反応率-
代表研究者 (所属・氏名)：	生殖技術部門・大浦 朝美
研究の目的：	自然の受精過程では卵子細胞質内に先体酵素が持ち込まれないため先体を除去した精子によるICSIが望ましいと思われるが、現状では確実な精子の先体除去法は確立されていない。我々は、先体反応誘起物質であるプロゲステロンと透明帯を組み合わせることにより先体反応率が上がるということを報告した(生殖医学会2022)。臨床応用できるプロゲステロン溶液の確保が課題だったが、採卵時の卵胞液中の自己細胞によりP4を抽出することができた。今回は、自己細胞由来プロゲステロン溶液と透明帯を用いた先体反応率について検討した。
調査データ該当期間：	20 22 年 5 月 19 日 ~ 20 22 年 7 月 29 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2022年5月19日~2022年7月29日に体外受精を実施し、研究の同意が得られた症例の体外受精後の余剰精子と余剰卵子または余剰胚の細胞質を除去した透明帯と卵胞液中の顆粒膜・莢膜細胞用の細胞塊を用いた。細胞塊よりP4を抽出し、精子調整液と最終濃度が500 ng/ml以上になるよう調整した溶液中で透明帯と共培養した。その後、透明帯に付着した精子をインジェクションピペットでスライドガラスに1匹ずつ固定しFITC-PSAにて染色、先体反応率を調べた(自己P-Z群)。対照には500 ng/mlプロゲステロン(SIGMA P8783)溶液中の透明帯に付着した精子(P-Z群)、自己細胞由来プロゲステロン溶液中の運動精子(自己P群)、通常の体外受精調整精子
個人情報の取り扱い：	患者試料を分析する際には、連結可能匿名化をする。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い、符号のみで取扱うので、個人情報は公開されない。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門・大浦 朝美
備考	